

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年12月）

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が多く発生し、集団感染の報告も増加しています。
- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年の同時期と比較しかなり多く発生しています。
- インフルエンザは流行注意報が発令されています。予防接種、手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。

◇ 全数把握の対象

＜11月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	2件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件
腸チフス	1件	急性脳炎	1件
パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
つつが虫病	1件	水痘(入院例に限る)	3件
デング熱	1件	梅毒	18件
レジオネラ症	4件	播種性クリプトコックス症	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代～30歳代で、血清群O157が2件です。経口感染と推定される報告が1件、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 腸チフス**:20歳代で、感染経路等不明です。
- パラチフス**:20歳代で、感染経路等不明です。
- E型肝炎**:50歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- つつが虫病**:80歳代で、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件ありました。
- デング熱**:20歳代で、蚊からの感染(海外)と推定されています。
- レジオネラ症**:60歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性脳炎**:10歳未満で、病原体不明、感染経路等不明です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**:80歳代(ワクチン接種歴無)、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:20歳代～80歳代(ワクチン接種歴1回1件、不明2件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期12件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晩期顕症梅毒1件です。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間13件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 播種性クリプトコックス症**:80歳代で、感染経路等不明です。

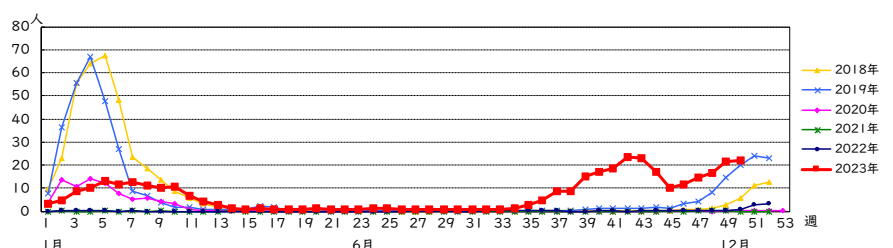
報告週対応表

第48週	11月27日～12月 3日
第49週	12月 4日～12月10日
第50週	12月11日～12月17日

◇ 定点把握の対象

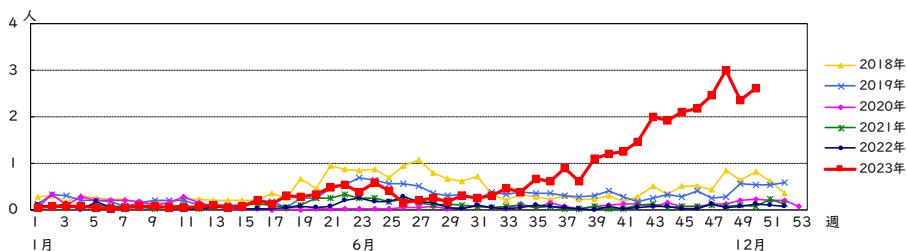
1 インフルエンザ

第34週以降増加が続き、第39週14.86で流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第50週は22.05です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報14号をご覧ください。



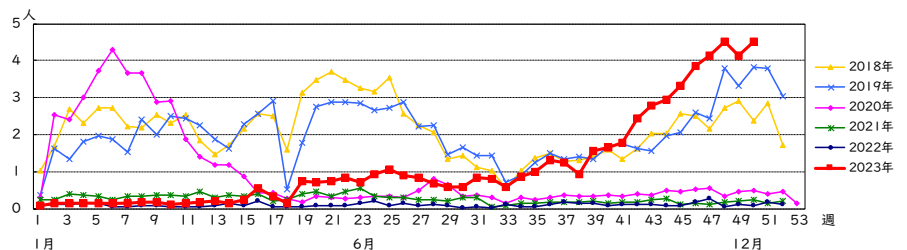
2 咽頭結膜熱

第39週以降増加が続き、第48週(3.00)に流行警報発令基準値(定点あたり3.00)となりました。第50週は2.60です。詳細は、咽頭結膜熱流行情報3号をご参照ください。



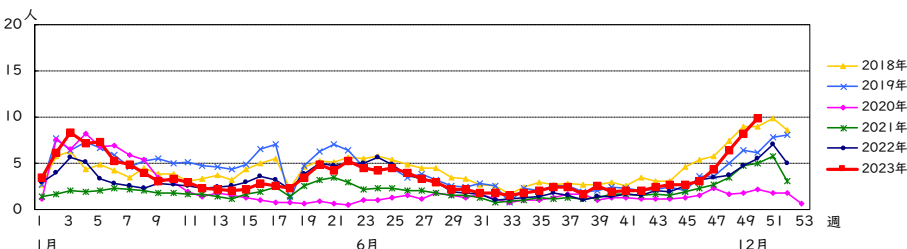
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第39週以降増加傾向が続き、第50週は4.50です。過去5年間の同時期と比較し多くなっています。



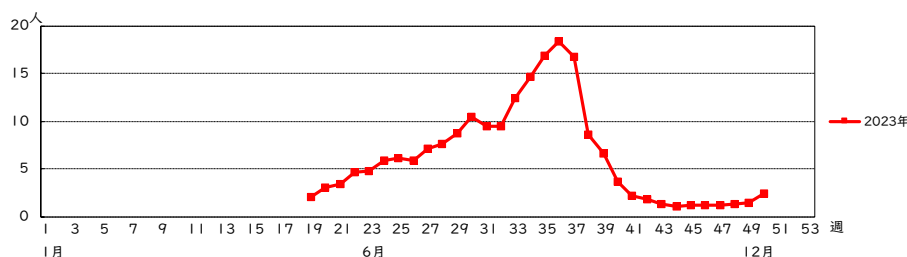
4 感染性胃腸炎

第41週以降増加傾向が続き、第47週以降の増加が顕著です。第50週は9.77です。



5 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。第36週18.38をピークに減少していましたが、第47週以降再び増加に転じています。第50週は2.42です。



6 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:27件	女性:24件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:18件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:3件	淋菌感染症	男性:17件	女性:4件

7 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	1.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

8 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月期(2023年第48週～第51週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点34件、内科定点9件、基幹定点6件及び定点外医療機関1件でした。

ウイルス分離30株及び各種ウイルス遺伝子6件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第48週～第51週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 炎
アデノウイルス	3			
アデノウイルス3型	2	1		1
インフルエンザウイルスAH1pdm		1	7	
インフルエンザウイルスAH3	1		17	
ヒトコロナウイルスOC43		2		
ライノウイルス		1		
合計	3	2	24	1
	3	3	-	-

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月期(2023年第48週～第50週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌1件、侵襲性肺炎球菌2件、クリプトコッカス属1件、サルモネラ属菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌4件、パラチフスA菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌4件、侵襲性肺炎球菌2件、レジオネラ属菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎等5件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2023年第48週～第50週）

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22F (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 28F (1)
		クリプトコッカス属	1	<i>Cryptococcus neoformans</i> (1)
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Chester (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	4	O157 : H7 VT2 (2)、O157 : H7 VT1 VT2 (1)、 O115 : H10 VT1 (1)
		パラチフスA菌	1	<i>Salmonella</i> ParatyphiA (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15A (2)
		レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> (1)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	1	培養陰性 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎、咽頭痛	5	A群溶血性レンサ球菌 TUT 陽性 (3)、 A群溶血性レンサ球菌 T12 陽性 (1)、 A群溶血性レンサ球菌 陰性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】